

ま え が き

本書は、2018年6月～2019年1月に実施した機動研究プロジェクト「カンボジア：最大野党不在の2018年総選挙」研究会の最終成果として執筆されたものである。本書が扱った第6期国民議会議員選挙（総選挙）は、2018年7月29日に投票が行われた。前回の総選挙が行われた2013年7月には、プノンペンの街は変化を求める若者たちの熱気に包まれ、最大野党・救国党が躍進した。しかし、その救国党は2017年11月の解党命令判決を受け、2018年総選挙に参加することはかなわなかった。老舗英字新聞の*The Cambodia Daily*の廃刊に代表されるように言論の自由が不安視される状況が続いた。それゆえ、2018年7月のプノンペンの街は、5年前の選挙キャンペーン期間の空気とは異なる静けさに包まれていたように思う。一方で、政治の安定を背景に確実な経済成長を達成し、さまざまな「改革」を行いつつ、野党の勢いを封じた与党・人民党は、投票の結果、全125議席を独占することとなった。

本書では、2018年総選挙に至るまでの背景事情と選挙結果を振り返りつつ、その前後に政府が行ってきた「改革」の内容と実態、それにともなう社会環境の変化を考察する。なかでも、2014～2018年のあいだに行われた選挙の運営にかかる諸改革、また、今後ますます重要になってくる若者世代に対する働きかけについて、踏み込んだ議論を行った。研究会は、それぞれ所属の異なる3人のメンバーで構成されていたことから、直接集まる機会が限られており、ときに国外にいるメンバーとインターネットでつないで議論を行ったり、メールで意見を交換するなど、随時情報を共有しながら執筆に向けた作業を行った。本書が完成するまでに、現地での調査に協力をしてくださった方々、執筆途中にアドバイスをくださった方々や査読者など、多くの方々のお力をお借りしたことに謝意を表したい。

本書で議論したさまざまな課題が、現在の、そして将来のカンボジアの政治・社会情勢を議論するうえでの参考となれば幸いである。

2019年12月 編者